

## サーバ仮想化ソリューション市場に関する調査結果 2010

### —前年度比 36%成長 “コスト削減効果”が生み出す成長市場—

#### 【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にてサーバ仮想化ソリューション市場について調査を実施した。

1. 調査期間：2009年12月～2010年6月
2. 調査対象：サーバ仮想化ソリューションに関わるソフトウェアベンダ、SIer 約14社
3. 調査方法：当社専門研究員による文献調査および直接面談によるヒアリング

#### ＜サーバ仮想化とは＞

サーバ仮想化ソフトなどを用い、1つのサーバをあたかも複数のサーバであるかのようにする技術。クラウドコンピューティングの基幹技術としても注目されている。本調査におけるサーバ仮想化ソリューション市場には、サーバ仮想化に関わるハード、ソフト、システム構築が含まれ、参入事業者の売上高ベースにて算出した。

#### 【調査結果サマリー】

- ◆ **2009年度は前年度比36.0%増となる1,024億円、2013年度には2,120億円の見込み**  
サーバ仮想化ソリューション市場規模は、2009年度は前年度比36.0%増となる1,024億円となった。同市場は、その後も順調に成長を続け、2013年度には2,120億円になると見込まれ、2007年度から2013年度までの年平均成長率は25.7%になる。

急成長の要因は“コスト削減効果”である。景況悪化局面における、ユーザー企業のコスト削減ニーズをうけ、その中心的なソリューションとして、サーバ仮想化が脚光を浴びたといえる。

- ◆ **仮想化後を見据え、プライベートクラウド構築への動きが活発に**

サーバ仮想化は、基幹技術として普及していくとみる。価格競争がおきているが、そのような中で差別優位性を確立していくためには、今後は保守・運用における付加価値提供が重要となるろう。

また、サーバ仮想化はクラウド基盤を構築するための基幹技術となっており、その先にはプライベートクラウド構築ビジネスが待っている。既にプライベートクラウド構築で大型案件を獲得するSIerも存在しており、先行企業はクラウド基盤の構築を次の成長曲線として捉えている。

- ◆ **資料体裁**

資料名：「サーバ仮想化ソリューション市場 急成長市場の実態とクラウドへの展望」

発刊日：2010年6月22日

体裁：A4判 163頁

- ◆ **株式会社 矢野経済研究所**

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）

（株）矢野経済研究所 営業本部 広報宣伝グループ TEL：03-5371-6912 E-mail: [press@yano.co.jp](mailto:press@yano.co.jp)

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。  
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報宣伝グループ迄お問合せ下さい。

## 【 調査結果の概要 】

### 1. 市場概況と今後の予測

#### “コスト削減効果”が強力に市場を牽引 一急成長するサーバ仮想化ソリューション市場

サーバ仮想化ソリューションの市場規模は、2008年度が753億円、2009年度は前年度比36.0%増となる1,024億円となった。同市場は、その後も順調に成長を続け、2013年度には2,120億円になると見込まれ、2007年度から20103年度までの年平均成長率は25.7%になる。

上述のように急成長している要因は、サーバ仮想化ソリューションの“コスト削減効果”である。リーマンショック後の景況悪化局面において、ユーザー企業は新規案件を軒並み停止・延期し、コスト削減への取り組みを強化した。その中心的なソリューションとして、サーバ仮想化が脚光を浴びたといえる。サーバを仮想化することで実際のサーバ台数を減らすサーバ仮想化ソリューションは、コスト削減効果を実感しやすく、ユーザー企業にとっても導入しやすいソリューションであった。

#### 参入ベンダーが急増する注目市場に

急成長する同市場であるが、2007年～2008年頃から参入するSIerが徐々に増加、コモディティ化が進展し、競争は激しさを増している。それに伴い、価格競争も激しくなり、ソリューション単価は低下傾向にある。

今後、サーバ仮想化は基幹技術として着実に根付いていくと考える。ゆえに、成長市場であることは間違いない。しかしながら、競合増・低価格化も避けられないことから、案件数は増加しつつも、前年度比成長率は鈍化していくと予測する。

### 2. 注目すべき動向

#### 既存顧客防衛のためにも必須なソリューションに

ベンダーがサーバ仮想化ソリューションを提供するきっかけになるのは、リース切れや保守切れといったタイミングが多い。そのため、既存顧客を中心とするものが多く、新規顧客獲得の手段としてはあまり使われていない。今後、ベンダーにとってサーバ仮想化ソリューションは、自社の既存顧客を競合他社に奪われないようにするために手掛けざるを得ないもの、という位置づけになるとみる。

#### 保守・運用への工夫が今後のテーマに

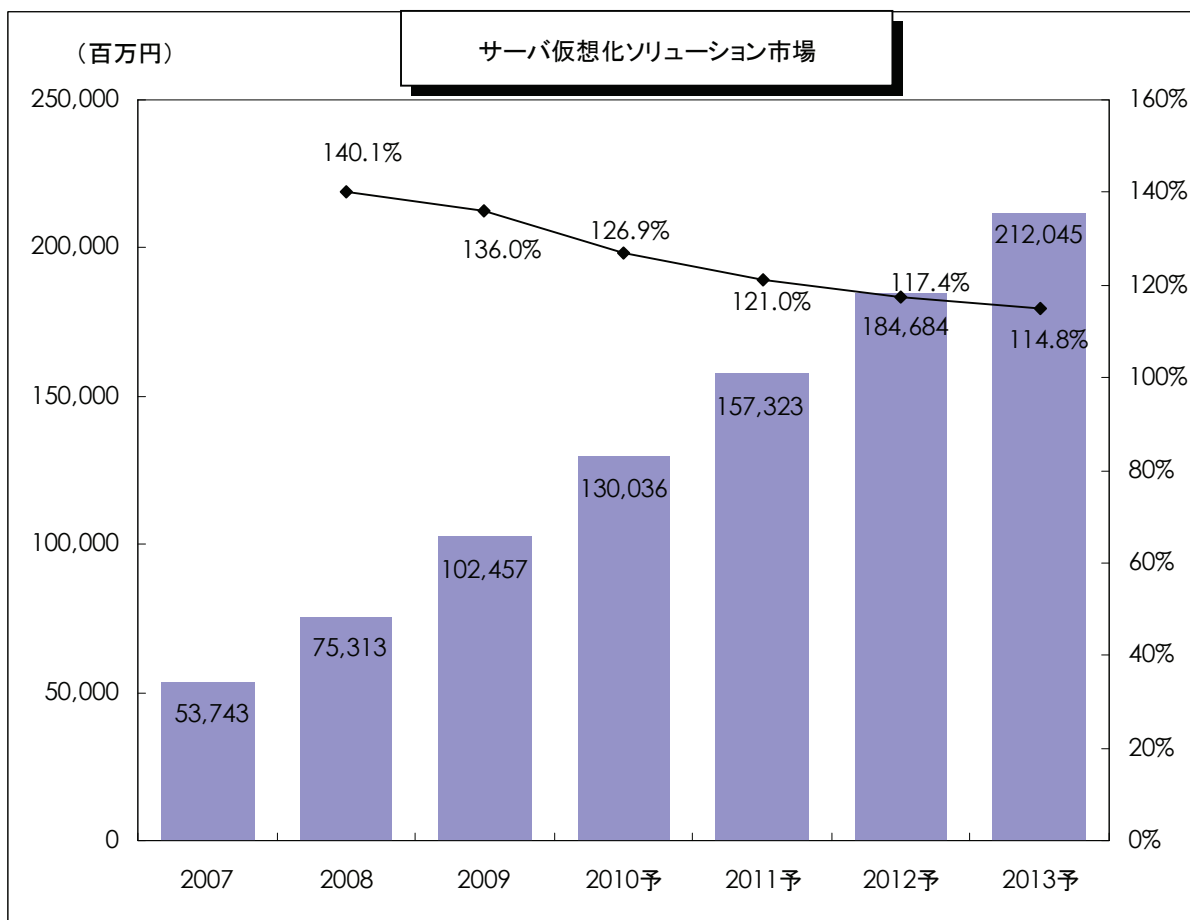
サーバ仮想化は、アセスメント⇒設計・構築・移行⇒保守・運用 という工程に分類できるが、特にアセスメントは無償化を含めた低コスト戦略をとるSIerが増加している。

今後は、保守・運用への工夫が、差別優位性を確保するための重要な要因になる。乱立する仮想マシンの保守・運用に課題を感じるユーザー企業は増加しており、今後は、保守・運用において、いかに有益な付加価値を提供できるかが重要となる。

#### 仮想化後 一次の成長曲線は“プライベートクラウド”

サーバ仮想化はクラウド基盤を構築するための基幹技術となっており、サーバ仮想化の先にはプライベートクラウド構築ビジネスが待っている。企業内に独自のクラウド環境を構築するプライベートクラウドは、もう未来のキーワードではなく、すぐ目の前にある現実である。既にプライベートクラウド構築で大型案件を獲得するSIerも存在しており、先行企業はクラウド基盤の構築を次の成長曲線として捉えている。

今後も、クラウド基盤構築といったクラウド・インテグレーションが市場を牽引し、SIerにとってもクラウドが重要なビジネスチャンスになってくるだろう。

**図表 1.サーバ仮想化ソリューション市場 市場規模予測**


単位: 百万円

	2007	2008	2009	2010予	2011予	2012予	2013予
サーバ仮想化ソリューション市場	53,743	75,313	102,457	130,036	157,323	184,684	212,045
対前年比		140.1%	136.0%	126.9%	121.0%	117.4%	114.8%
CAGR		40.1%	38.1%	34.2%	30.8%	28.0%	25.7%

矢野経済研究所推計

注 1: 会計年度ベース

注 2: 事業者売上高ベース

注 3: 予は予測値